EXPRESSBUILDER

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMの使用方法とEXPRESSBUILDERにバンドルされている各種管理ソフトウェアの紹介と使用方法について説明します。

添付のCD-ROMについて

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMには、本装置を容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、本装置の機能をより多く引き出すことができます。

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMは、本装置の設定が完了した後でも、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用される機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。

EXPRESSBUILDER

本装置

管理PC

LAN

セットアップユーティリティ

EXPRESSBUILDER（183ページ）

ディスクアレイ管理ユーティリティ

- Power Console Plus (サーバ)（198ページ）
- Adaptec Storage Manager™（201ページ）

システム管理ユーティリティ

- ESMPRO/ServerAgent （195ページ）
- エクスプレス通報サービス（202ページ）
- システム診断ユーティリティ（214ページ）

セットアップユーティリティ

ExpressPicnic（189ページ）

その他

各種オンライン
ドキュメント
（HTML/PDF）

システム管理ユーティリティ

ESMPRO/ServerManager（204ページ）

ディスクアレイ管理ユーティリティ

- Power Console Plus (管理PC)（205ページ）
- Adaptec Storage Manager™(201ページ)

標準装備のSAS RAIDボード(A)、またはオプションのディスクアレイコントローラのRAIDを設定するユーティリティは各ボード上のチップに格納されています。SAS RAIDボード(A)のユーティリティの操作方法については5章の「SAS RAIDコンフィグレーション」を、オプションのディスクアレイコントローラのユーティリティの操作方法についてはボードに添付の説明書、またはEXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメントを参照してください。

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、Express5800シリーズに接続されたハードウェアを自動検出して処理を進めるセットアップ用統合ソフトウェアです。EXPRESSBUILDERからOSをインストールする際には、インストール対象のハードディスクドライブ(またはディスクアレイの論理ドライブ1台のみ)だけを接続してセットアップしてください。

起動メニューについて

EXPRESSBUILDERには2つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニューや項目が異なります。

- 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMから起動する

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを本装置のDVD-ROMドライブにセットして起動し、EXPRESSBUILDER内のシステムから起動する方法です。この方法で本装置を起動すると右に示す「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

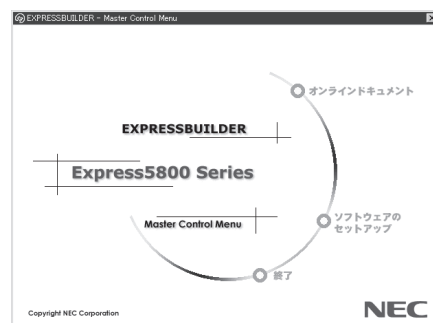
このメニューにある項目から本装置をセットアップします。

重要
- **本装置以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていた本装置以外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。**
- **メニューの「シームレスセットアップ」を実行するとあらかじめインストールされているOSを消去します。OSもインストールし直す必要があります。**

EXPRESSBUILDERトップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDERトップメニュー」を参照してください。

- Windowsが起動した後に「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする

Windows 95以降またはWindows NT 4.0以降が起動した後に、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをDVD-ROMドライブにセットするとメニューが表示されます(右図参照)。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。

マスターコントロールメニューについてはこの後の「マスターコントロールメニュー」を参照してください。

EXPRESSBUILDERトップメニュー

EXPRESSBUILDERトップメニューはハードウェアのセットアップおよびOS（オペレーティングシステム）のセットアップとインストールをするときに使用します。

> **重要**
>
> **BIOSの設定を間違えると、CD-ROMから起動しない場合があります。**
> **EXPRESSBUILDERを起動できない場合は、BIOS Configuration/Setupユーティリティを起動して以下のとおりに設定してください。**
>
> 「Start Options」－「Startup Sequence Options」メニュー
> － 「First Startup Device」を[CD-ROM]
> － 「Second Startup Device」を[Diskette Drive 0]

起　動

次の手順に従ってEXPRESSBUILDERトップメニューを起動します。

1. 周辺装置、本装置の順に電源をONにする。
2. 本装置のDVD-ROMドライブへ「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする（<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONして本装置を再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDERトップメニューが現れます。

シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS（Windows Server 2003）、各種ユーティリティのインストールまでを添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使って切れ目なく（シームレスで）セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。
購入時の状態と異なるハードディスクドライブのパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用すると煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。
「シームレスセットアップ」を選択すると、OSのインストールを開始します。

重要

- **「シームレスセットアップ」は最初からのセットアップであることを前提としているため、実行するとハードディスクドライブの内容が失われることがあります。**
- **セットアップを開始したら、完了するまで本体装置の電源をOFFにしないでください。また、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。**

ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別で起動し、オペレータが手動でセットアップを行います。「シームレスセットアップ」では自動設定できない設定や、より詳細に設定したい場合などに使用してください。

次にツールメニューにある項目について説明します。

- **RAID情報のセーブ/リストア**

  ディスクアレイシステムのコンフィグレーション情報をフロッピーディスクに保存(セーブ)、またはフロッピーディスクから復元(リストア)することができます。

  - RAID情報のセーブ

    ディスクアレイコントローラのコンフィグレーション情報をフロッピーディスクに保存します。フォーマット済みのフロッピーディスクを用意してください。RAIDの設定や変更を行った時は、必ず本機能を使用してコンフィグレーション情報をセーブしてください。

  - RAID情報のリストア

    フロッピーディスクに保存されたコンフィグレーション情報をディスクアレイコントローラ上のNvRAMとHDDに復元します。「RAID情報のセーブ」で作成したフロッピーディスクを用意してください。コンフィグレーション情報が万一破壊された場合や、誤ってコンフィグレーション情報を変更してしまった場合は、本機能を使用してコンフィグレーション情報をリストアしてください。

例えば、故障などによりディスクアレイコントローラを交換する場合、ハードディスクドライブ上のコンフィグレーション情報をディスクアレイコントローラのNvRAMへ保存する必要がありますが、もし誤ってNvRAMのコンフィグレーション情報をハードディスクドライブに保存してしまった場合は、本機能を使用してリストアしてください。

この機能をサポートしていないディスクアレイコントローラもあります。その場合、このメニューは表示されません。

以下のメッセージが表示された場合は、RAID情報のセーブ/リストアを行う対象のコントローラIDを、括弧内に表示される数字の範囲内から入力してください。

Zero Channel RAID コントローラIDを入力してください : [0-X]

この機能は保守用です。保守以外の目的で操作しないようにお願いいたします。誤った操作を行うとデータを損失するおそれがあります。

- **RASユーティリティ**

保守者用のユーティリティです。

- BIOS Setup情報のセーブ

フロッピーディスクにBIOSのコンフィグレーション情報を保存します。フォーマット済みのフロッピーディスクを用意してください。

- BIOS Setup情報のリストア

フロッピーディスクに保存されたBIOSのコンフィグレーション情報を復元します。「BIOS Setup情報のセーブ」で作成したフロッピーディスクを用意してください。

BIOS Setup情報のセーブ／リストアを実行中に以下のメッセージが表示されますが、動作には問題ありません。

NS4XX Chipset detected...

- **システム診断**

本装置上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査します。システム診断を実行すると、本装置に応じてシステムチェック用プログラムが起動します。214ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

● **サポートディスクの作成**

サポートディスクの作成では、EXPRESSBUILDER内のユーティリティをフロッピーディスクから起動するための起動用サポートディスクやオペレーティングシステムのインストールの際に必要となるサポートディスクを作成します。 なお、画面に表示されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易です。

サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

- Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

  Windows Server 2003 x64 Editionをインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します。

- Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

  Windows Server 2003 Enterprise Editionをインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します(「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません)。

- ROM-DOS起動ディスク

  ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

- システムBIOSユーティリティ

  システムBIOSユーティリティの起動用サポートディスクを作成します。システムBIOSユーティリティはシステムBIOS・DIAGのアップデート、システムBIOSのセーブとリストアに使用します。

● **各種BIOS/FWのアップデート**

8番街で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、本装置のBIOS/FW(ファームウェア)をアップデートすることができます。「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい説明があります。

『NEC 8番街』: http://nec8.com/

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindowsのメモ帳などで読むことができます。

BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

● **ヘルプ**

EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

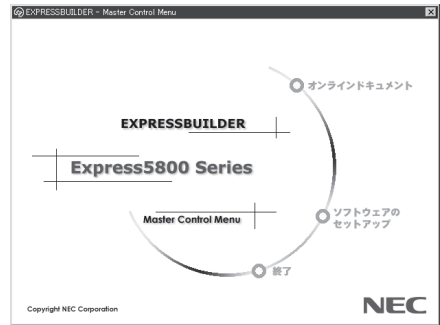
● **トップメニューに戻る**

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

マスターコントロールメニュー

Windows（Windows 95以降またはWindows NT 4.0以降）が動作しているコンピュータ上で添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットすると、「マスターコントロールメニュー」が自動的に起動します。

システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROM上の次のファイルをエクスプローラ等から実行してください。

¥MC¥1ST.EXE
¥MC¥1ST_X64.EXE（Windows x64 Editionsの場合）

マスターコントロールメニューからは、Windows上で動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。

オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAdobe Reader がインストールされている必要があります。Adobe Reader がインストールされていないときは、Adobeシステムズ社のインターネットサイトより Adobe Readerをインストールしてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックで現れるショートカットメニューから行います。

CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

ExpressPicnic

「ExpressPicnic®」は、EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで使用する「セットアップパラメータFD」を作成するツールです。

EXPRESSBUILDERとExpressPicnicで作成したセットアップパラメータFDを使ってセットアップをすると、いくつかの確認のためのキー入力を除きOSのインストールから各種ユーティリティのインストールまでのセットアップを自動で行えます。また、再インストールのときに前回と同じ設定でインストールすることができます。「セットアップパラメータFD」を作成して、EXPRESSBUILDERからセットアップすることをお勧めします。フロッピーディスクをご使用の場合は、別途USBフロッピーディスクドライブをご用意ください。

Microsoft Windows Server 2003 x64 Editions用の「セットアップパラメータFD」は作成できません。

「セットアップパラメータFD」がなくてもWindows Server 2003をインストールすることはできます。また、「セットアップパラメータFD」は、EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの途中で修正・作成することもできます。

セットアップパラメータFDの作成

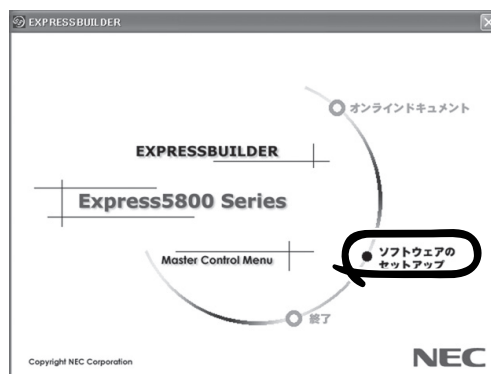
OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「セットアップパラメータFD」を作成します。以下の手順に従ってください。

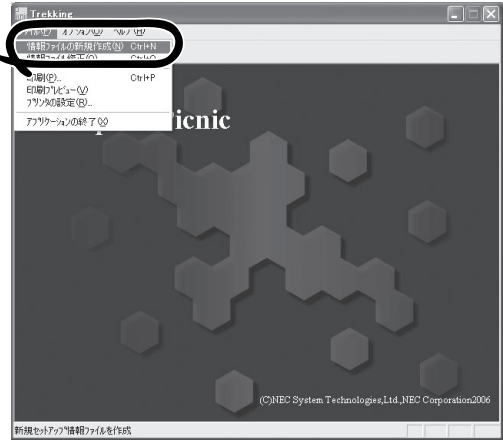
ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。

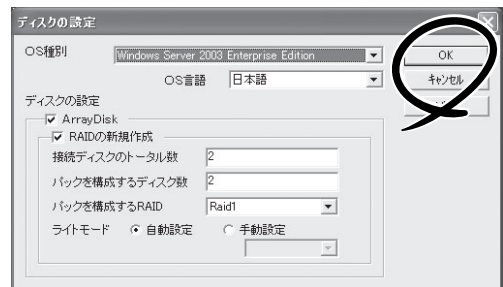
1. OSを起動する。
2. 添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをDVD-ROMドライブにセットする。

   マスターコントロールメニューが表示されます。
3. 画面上で右クリックするか、[ソフトウェアのセットアップ]を左クリックする。
4. [ExpressPicnic]をクリックする。

   ExpressPicnicウィンドウが表示されます。

6 EXPRESSBUILDER

5. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

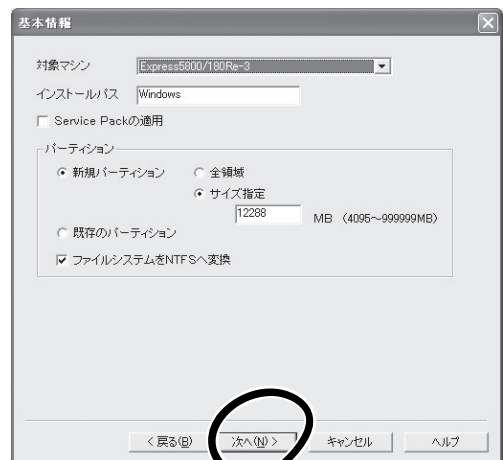
   [ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。

6. 各項目を設定し、[OK]をクリックする。

   [基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

7. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。

   セットアップ情報の設定が完了すると、[ファイル保存]ダイアログボックスが表示されます。

[キャンセル]をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

ヒント

使用者名と会社名を日本語で設定する場合は、ExpressPicnicで設定してください。シームレスセットアップ中に日本語入力することはできません。ただし、シームレスセットアップを使ったインストールを完了後、ログオンのときに表示されるポップアップ画面で再入力し直すことができます。

8. [セットアップパラメータFD]チェックボックスをオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

9. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]をクリックする。

「セットアップパラメータFD」が作成できました。「セットアップパラメータFD」はWindows Server 2003をインストールするときに使用します。ラベルを貼り大切に保管してください。

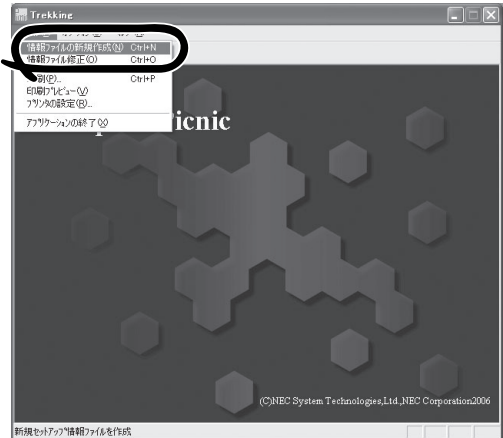
- 各項目の設定内容についてはヘルプを参照してください。
- 既存の情報ファイル(セットアップパラメータFD)を修正する場合は、ExpressPicnicウィンドウの[情報ファイルの修正]をクリックしてください。ヘルプを参照して情報ファイルを修正してください。

追加アプリケーションのインストール

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMでサポートしていないアプリケーションを追加でインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。

重要 **追加でインストールするアプリケーションは、シームレスセットアップに対応している必要があります。**

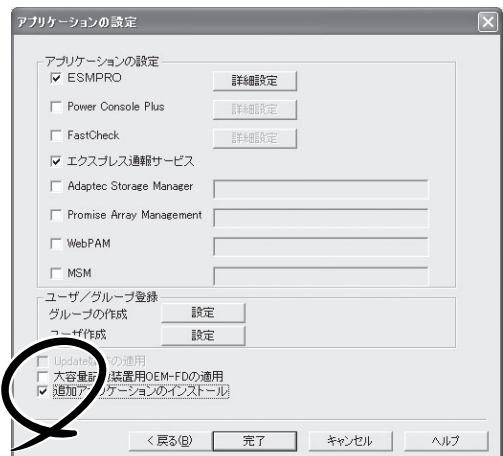
1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる（189ページ参照）。
2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

   [ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。

3. 各項目を設定し、[OK]をクリックする。

   [基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックス順に表示されます。

4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。

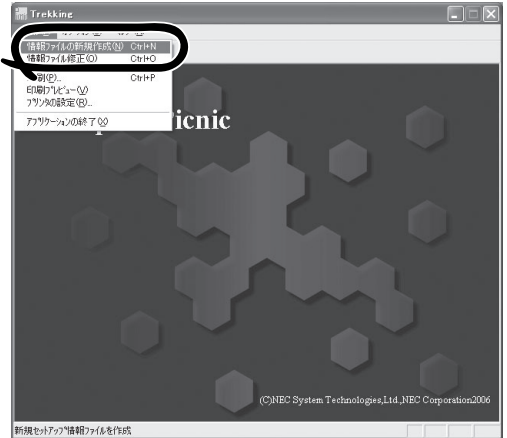
   [キャンセル]をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

5. [アプリケーションの設定]が表示されたら、[追加アプリケーションのインストール]にチェックを入れる。
6. [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。
7. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]をクリックする。

大容量記憶装置ドライバのインストール

シームレスセットアップに対応しているオプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(189ページ参照)。

2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

   [ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。

3. 各項目を設定し、[OK]をクリックする。

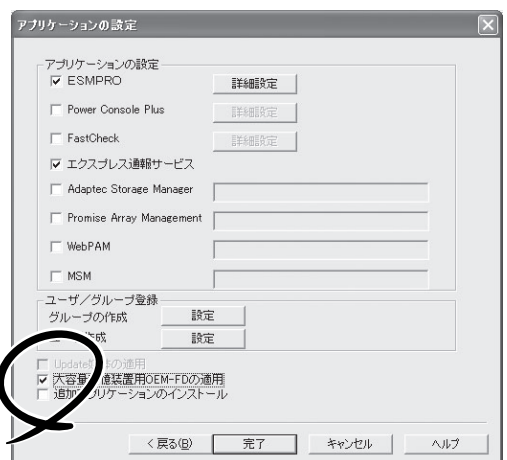
   [基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。

   [キャンセル]をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

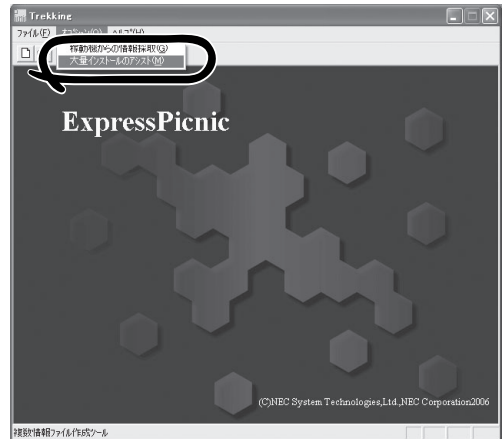
5. [アプリケーションの設定]が表示されたら、[大容量記憶装置用OEM-FDの適用]にチェックを入れる。

6. [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

7. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]をクリックする。

大量インストール

ベースとなるセットアップ情報ファイルを指定し、マシンごとに変更する必要のあるパラメータのみ修正して、複数のセットアップ情報ファイルを作成します。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(189ページ参照)。

2. [オプション]メニューの[大量インストールのアシスト]をクリックする。

3. [ファイルを開く]画面でベースとなるセットアップ情報ファイルを選択する。

   ベースとなるセットアップ情報ファイルの設定値がリストの一番上の欄に表示されます。

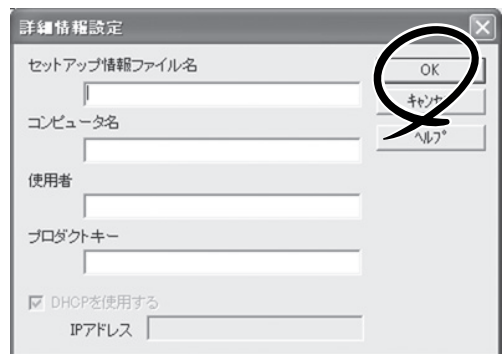
4. [追加]をクリックする。

5. ベースとなるセットアップ情報ファイルから変更するパラメータを設定する。

6. [OK]をクリックする。

   リストに追加した情報が表示されます。

7. ファイル名を選択し、[FD作成]をクリックする。

   選択したファイル名のセットアップパラメータFDを作成します。

本体用バンドルソフトウェア

本装置のシステム全般を保守・管理するソフトウェア「ESMPRO/ServerAgent」と「ESMPRO/ServerManager」について説明します。ESMPRO/ServerAgentは本装置にインストールします。ESMPRO/ServerManagerは管理PCにインストールします。

ESMPRO/ServerAgent(Windows版)

ESMPRO/ServerAgent(Windows版)は本装置にインストールするサーバ監視用アプリケーションです。
EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。

運用上の注意事項については、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent(Windows版)インストレーションガイド」に記載しています。ご覧ください。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgent(Windows版)を動作させるためには対象OSのTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

ネットワークサービスの設定

プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動するヘルプを参照してください。

SNMPサービスの設定

コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「*」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

インストール

ESMPRO/ServerAgent(Windows版)のインストールは添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使用します。

本体上のOSが起動した後、Autorunで表示されるメニューから[ESMPRO]ー[ESMPRO/ServerAgent]の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。

アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。

ネットワーク上のDVD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。

アップデートインストールについて

ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgent(Windows版)をインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

1. 本体を再起動する。
2. イベントログを開く。
3. イベントログにESMPRO/ServerAgentの監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。

   エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめからインストールし直してください。

補足事項

オンラインドキュメントに記載されている補足事項に加えて、以下の点に注意してください。

ESMPRO/ServerAgentによるシャットダウンについて

本装置では、ESMPRO/ServerAgentによるシャットダウンの無効化設定およびシャットダウン開始のキャンセルはできません。
通報設定の基本設定で「シャットダウン開始までの時間設定」の有効/無効ビットマップを赤色に変更したり、「キャンセルボタンを無効にする」のチェックボックスをはずしたりしないでください。

Power Console Plus(サーバ)

Power Console PlusはWindowsサーバにおける、LSI Logicディスクアレイシステムの監視・管理用のアプリケーションです。
Power Console Plusの動作環境や操作手順については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plus™ユーザーズガイド」を参照してください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にPower Console Plusがあらかじめインストールされている場合があります。このままでも使用できますが、後述の「Power Console Plus(サーバ)の環境設定」に記載の内容の設定を行うことをお勧めします。また、リモートからの監視をする場合は別途、Power Console Plus(管理PC)をインストールしてください。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

Power Console Plusは添付の「EXPRESSBUILDER」に収められている自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。
シームレスセットアップを開始すると、アプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「Power Console Plus」を選択してください。なお、シームレスセットアップ後は後述の環境設定をしてください。また、リモートからの監視をする場合は別途、Power Console Plus(管理PC)をインストールしてください。

手動インストール(新規インストール)

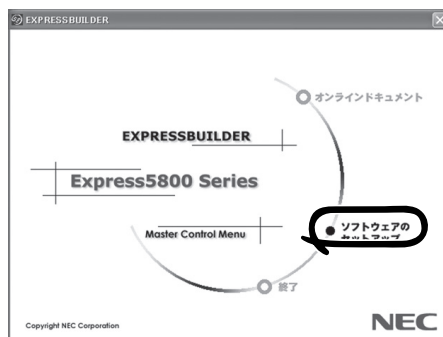
手動でインストールする場合は以下の説明を参考にしてインストールしてください。インストールに関する詳しい手順と操作方法についてはEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plus™ユーザーズガイド」を参照してください。

Power Console Plus(サーバ)をインストールする前に

Power Console Plus(サーバ)をインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- LSI Logic製のディスクアレイコントローラがシステムに取り付けられていること
- LSI Logic製のディスクアレイコントローラのドライバが組み込まれていること
- WindowsのSNMPサービスが組み込まれていること
- WindowsのTCP/IPの設定が終了していること
- システムのアップデートが終了していること
- Administratorsグループでログオンされていること
- Internet Explorer 5.5以降がインストールされていること

Power Console Plus(サーバ)のインストール手順

Power Console Plus(サーバ)のインストールは添付のEXPRESSBUILDERを使用します。WindowsではEXPRESSBUILDERをドライブにセット後、マスターコントロールメニューから[ソフトウェアのセットアップ]ー[ESMPRO]ー[関連ユーティリティメニュー]ー[Power Console Plus]の順にクリックします。

ここで表示されるセットアップオプションの選択でインストールするコンポーネントとして「サーバ」または「サーバ+管理サーバ」をチェックし、[次へ]をクリックしてください。以降はダイアログボックスのメッセージに従ってインストールしてください。なお、インストール後は後述の環境設定をしてください。また、リモートからの監視をする場合は別途、Power Console Plus(管理PC)をインストールしてください。

上記記述の管理サーバはネットワークで接続されたすべてのサーバおよび管理PCを管理するコンピュータとしてネットワーク内に1つ定義します。

Power Console Plus(サーバ)の環境設定

- **HOSTSファイルの設定**

ネットワーク経由で制御する場合はすべてのサーバ/管理PCおよび管理サーバのIPアドレスとホスト名を登録してください。サーバ内でのみ制御する場合はこの作業は不要です。

- **REGSERV.DATの設定**

ネットワーク経由で制御する場合は管理サーバのホスト名をすでにある「localhost」の設定と置換してください。サーバ内でのみ制御する場合はこの作業は不要です。

- **パスワードファイルのアクセス権設定**

「c:¥Winnt¥System32¥drivers¥etc¥raidpass.val」(c:¥Winntは、Windowsの一般的なインストール先フォルダです)をセキュリティ保持の観点からNTFSファイルアクセス権をAdministrator権限などに変更してください。

Adaptec Storage Manager™

Adaptec Storage Manager™(以下ASMと略記します)は、内蔵のSAS RAIDボード(A)の監視・管理を行うアプリケーションです。ASMを使用することで、システム運用中のアレイの保守やイベント監視による通報を行うことができます。

ASMのインストールおよび操作方法については、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「Adaptec Storage Manager™ ユーザーズガイド」を参照してください。
この説明書には運用にあたって注意すべきことも掲載しています。
運用開始前に必ずお読みください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にASMがあらかじめインストールされている場合があります。この場合、別途通報監視についての設定などが必要な場合があります。
「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「Adaptec Storage Manager™ユーザーズガイド」を参照し、設定してください。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

ASMは添付の「EXPRESSBUILDER」に収められている自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。シームレスセットアップを開始すると、アプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「Adaptec Storage Manager™」を選択してください。

手動インストール(新規インストール)

手動でASMをインストールする場合は「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「Adaptec Storage Manager™ユーザーズガイド」を参照してください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールで保守センターに自動通報することができます。
本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にエクスプレス通報サービスがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのエクスプレス通報サービスはまだ無効になっております。必要な契約を行い、通報開局FDを入手してから、次の操作を行うとエクスプレス通報サービスは有効になります。エクスプレス通報サービス有効後はEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「エクスプレス通報サービスインストレーションガイド」を参照して設定してください。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

  本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

  契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスを有効にする操作

次の手順で購入時にインストール済みのエクスプレス通報サービスの機能を有効にします。

1. [コントロールパネル]の[ESMPRO/ServerAgent]を選択する。
2. [全般]タブの[通報の設定]をクリックする。

   アラートマネージャ設定ツールが起動します。
3. [ツール]メニューの[エクスプレス通報サービス]、[サーバ]を選択する。

   [エクスプレス通報サービスセットアップユーティリティ]が起動します。
4. 通報開局FDをフロッピーディスクドライブにセットし、通報開局FDを読み込む。

   エクスプレス通報サービスが有効となります。

手動インストール（新規インストール）

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。

エクスプレス通報サービスのセットアップ環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。

ハードウェア

- メモリ　18.0MB以上
- ハードディスクドライブの空き容量　30.0MB以上
- メールサーバ
  電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要です。

ソフトウェア

- 添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のESMPRO/ServerAgent
- 上記、ESMPRO/ServerAgentがサポートするOS
- マネージャ経由の通報を使用する場合は、マネージャ側に以下の環境が必要です。
  ESMPRO/ServerManager* ＋ ESMPRO/AlertManager Ver3.4以降

  * 被監視サーバのESMPRO/ServerAgentのバージョン以上を使用してください。
  （例）　被監視サーバがESMPRO/ServerAgent Ver3.8の場合、ESMPRO/ServerManagerはVer3.8以降を使用してください。

セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

  本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

  契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

管理PC用バンドルソフトウェア

装置をネットワーク上から管理するための「管理PC」を構築するために必要なバンドルソフトウェアについて説明します。

ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたコンピュータをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、本体にバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。
管理ＰＣへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントまたはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。

ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストレーションガイド」を参照してください。

Power Console Plus(管理PC)

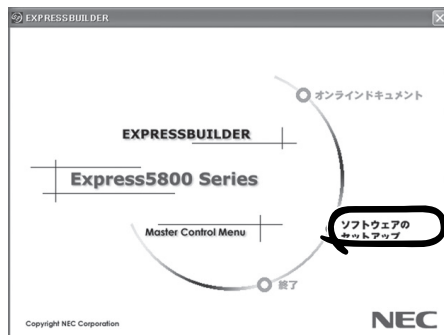
Power Console Plusをネットワーク経由でサーバを管理する場合にインストールします。以下の説明を参考にしてPower Console Plus(管理PC)を管理PCにインストールしてください。インストールに関する詳しい手順や動作環境、操作手順については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plus™ユーザーズガイド」を参照してください。

Power Console Plus(管理PC)をインストールする前に

Power Console Plus(管理PC)をインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- WindowsのTCP/IPの設定が終了していること
- システムのアップデートが終了していること
- Administratorsグループでログオンされていること
- Windows NT 4.0の場合、サービスパック6aが適用されていること
- Internet Explorer 5.5以降がインストールされていること

Power Console Plus(管理PC)のインストール手順

Power Console Plus(管理PC)のインストールは添付のEXPRESSBUILDERを使用します。EXPRESSBUILDERをドライブにセット後、マスターコントロールメニューから[ソフトウェアのセットアップ]－[ESMPRO]－［関連ユーティリティメニュー]－[Power Console Plus]の順にクリックします。

ここで表示されるセットアップオプションの選択でインストールするコンポーネントとして「管理PC」または「管理PC＋管理サーバ」をチェックし、[次へ]をクリックしてください。以降はダイアログボックスのメッセージに従ってインストールしてください。

上記記述の管理サーバはネットワークで接続されたすべてのサーバおよび管理PCを管理するコンピュータとしてネットワーク内に1つ定義します。

Power Console Plus(管理PC)の環境設定

- **HOSTSファイルの設定**

  管理サーバとすべてのサーバ/管理PCのIPアドレスとホスト名を登録してください。

- **REGSERV.DATの設定**

  管理サーバのホスト名をすでにある「localhost」の設定と置換してください。

オフライン保守ユーティリティ

本装置ではオフライン保守ユーティリティをサポートしていません。RASユーティリティを使用してください。